



花
子
美

種
子
好
國
員
画

四
端
上

特
2686
4



七不思議高節物語
板言待美長林長移田真盛



所謂本所の七不思議ハ。片葉の葦。おいてりけ堀。埋藏の溝

足洗ひ屋舗。送り挑燈。赤豆婆。あうりまの葦莢屋まで

あかろよ一説いふ片葉の葦とおいてりけ堀の外ハ皆異よ

馬鹿雑し。三ッ目椽の火。姥の足跡。姥が藏。ろろね茅燭を箕

入らば必七事と決りしものありけ越後人崑崙橋氏の北越奇談よ

越後國の七奇も異説區々あり。通計二十四奇ありといはれるも待しから

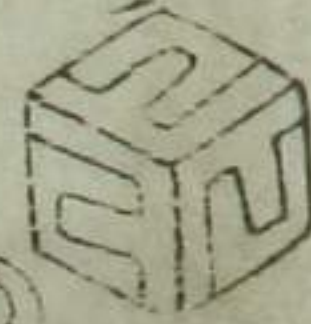
ず。本編元來戯作るも七奇と號しとど八奇も九奇も便宜よ

随採用の風説のそとて棄るものあり口繪ハ北狸の化るを奉るも

馬鹿雜しをも採るものあり其話説よあつる五六編の後ハ載せし

元治二年乙丑開春

柳亭種彦



五訂市四日



木白取神社巫女上壽を日
寶ハ於於不狂

十子屋家右衛門



翠郷

搦生豆若

十回長者萬都大夫



上野市車馬

三

山の中をゆく馬車
 女は毛皮の着物を
 着て馬に跨りて
 行く。馬は静かに
 歩いている。背景
 には山と木々が見
 える。

右の建物は、
 馬車屋か、
 宿屋か、
 不明。

上野市車馬



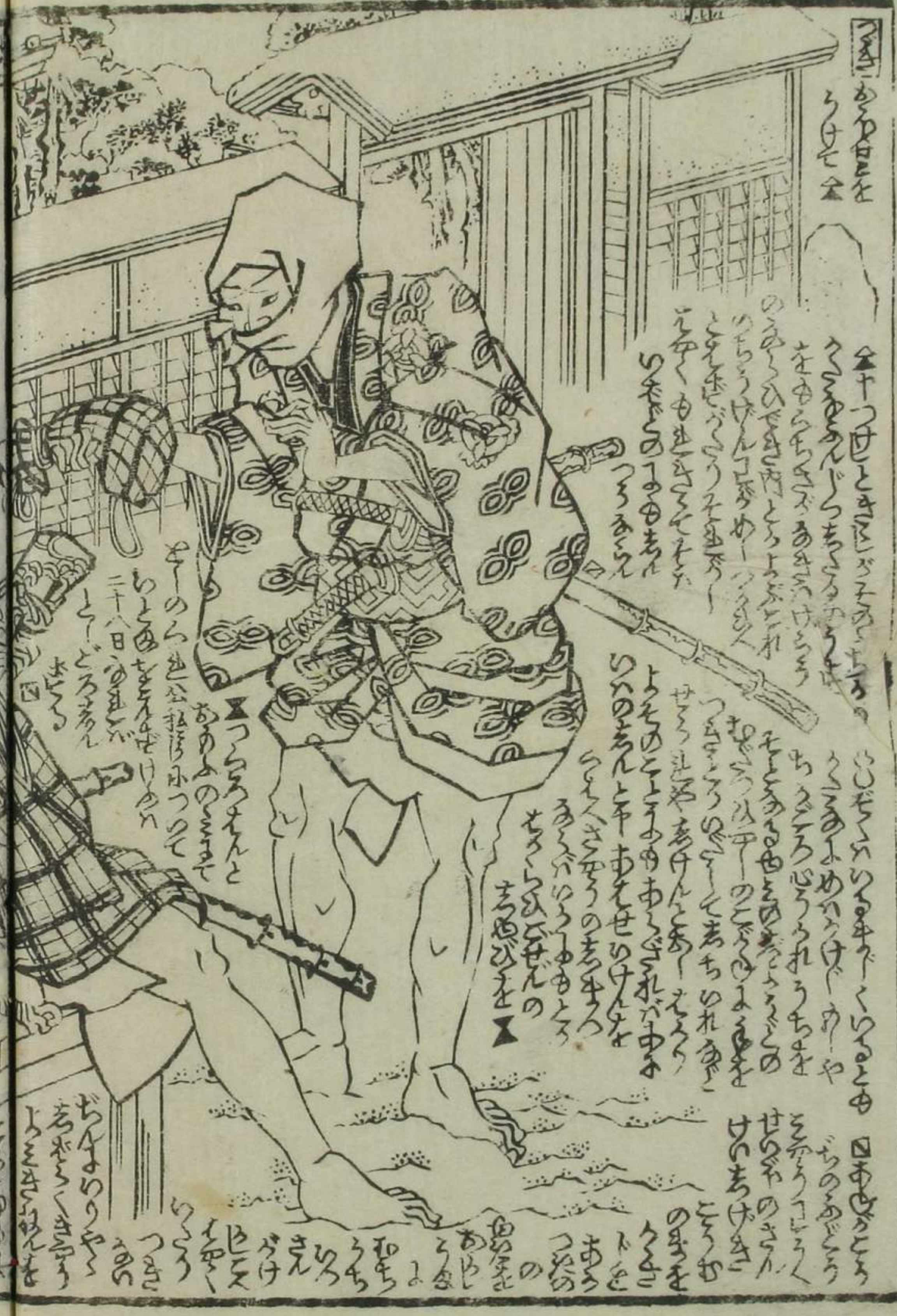
上
下
中
下
下
下

四三

五

六

七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十



二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十

三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十

四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十

五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十

種彦作 國貞画

○本全三巻
一巻の目録
二巻の目録
三巻の目録



實州散

大東
實州散

此散は州散の類に中候通くは明に内要の如く散粒
散粒の如く散粒の如く散粒の如く散粒の如く散粒
散粒の如く散粒の如く散粒の如く散粒の如く散粒
中候通くは明に内要の如く散粒
散粒の如く散粒の如く散粒の如く散粒の如く散粒

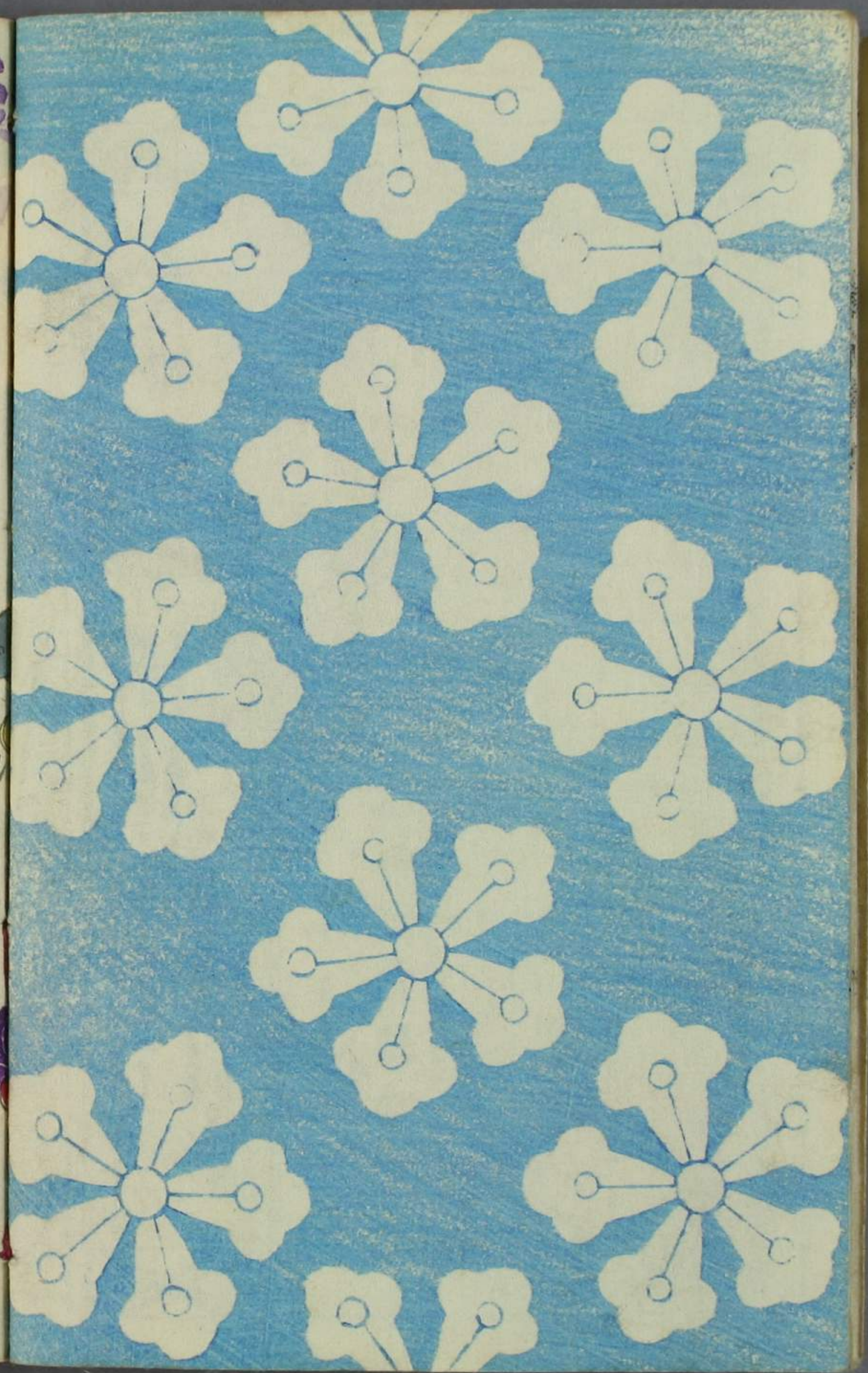
柳蔭月朝妻

山々亭有人作
梅朝樓國貞画

藪黃鷄八幡不知

山々亭有人作
錦朝樓方希画

昔者賣出... 柳蔭月朝妻... 藪黃鷄八幡不知...
昔者賣出... 柳蔭月朝妻... 藪黃鷄八幡不知...
昔者賣出... 柳蔭月朝妻... 藪黃鷄八幡不知...
昔者賣出... 柳蔭月朝妻... 藪黃鷄八幡不知...
昔者賣出... 柳蔭月朝妻... 藪黃鷄八幡不知...



四橋下



Vertical text on the left margin of the illustration.



書号 (Shu-gou)

Handwritten characters in the upper right area of the seal impression.

神快 (Shinkai)

必心三果 (Hissin San-ka)









Vertical text on the left margin.

Vertical text on the bottom margin.





Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a diary entry, located below the illustration on the right page.



Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a diary entry, located below the illustration on the left page.

Vertical text located above the illustration on the left page.



長崎日記の一場面

種彦作國貞画



明治四年壬午春陽春開校標目

厚化粧の女
種彦作

新島九尾傳
種彦作

室町源氏明
種彦作

筆海四國聞書
種彦作

鼠祠通夜譚
種彦作

明鳴雲通西物語
種彦作

童謡妙車
種彦作

花封巻玉草
種彦作

薄保如日記
種彦作

大傳大の双紙
種彦作

十編本葛飾譚
種彦作

萬屋吉藏板



